

【特別書面インタビュー】大槌ゆかりの方に伺う 『今後の10年へ向けてコロナ禍を乗り越えるために』

歌手
みち乃く兄弟
(前川弘至さん・前川仁志さん)

ふるさとで皆様と
笑顔でお会い出来る
日を楽しみに。

<前川弘至さん(左)・前川仁志さん(右) 略歴>

大槌町吉里吉里出身。兄弟で活動する演歌歌手のお二人。津軽三味線の有名な演奏者でもある。1972年、兄(弘至)、民謡原田直之師に師事。1977年、弟(仁志)、船員を辞め兄を頼りに上京、歌手を目指す。以後、「吉里吉里兄弟」として活動。1989年、「戦国」(名付:吉幾三氏)に芸名を改め、吉幾三作詩・作曲「東日流」(つがる)全国発売、横浜音楽祭新人奨励賞受賞。1992年、「みち乃く兄弟」に改名。2018年、歌手デビュー30周年記念盤として、大槌町を歌う「帰郷」を、新沼謙治作詩・作曲のうえ、10月3日発売。他に発売曲多数。

国内で新型コロナウイルスの感染が広がりはじめて1年が過ぎます。この1年はどんな日々でしたか？

私達の歌謡界も全てのコンサートやイベントがキャンセルになり大変な日々でした。でも徐々にですが観客を半分にしたたりしてコンサートができる様になってきています。でもまだまだ大変な状況が続いています。

こうしたときに大事にしていること、大事だと思っていることは何ですか？

新型コロナウイルス感染症がこんなに怖い感染症だとは思いませんでした。まずは感染しない様に気をつけること。そして身体を維持する為に日頃のトレーニングやウォーキング、心身ともに健康であることを大事にしています。「こんな時こそ 身体を健康に！」

コロナ禍でのエンターテインメント、観光、文化芸術のあり方とは？

コロナ禍、生活様式が変わりました。私達の仕事はお客様あつての仕事です。ソーシャルディスタンスをとってのコンサート、もちろんお客様との握手もできません。

この1年、色々と考えさせられました。私達みたいな仕事はなくてもいいんじゃないかと。でも歌うことで皆様に元気を届けたり、そして私達も皆様から笑顔を貰います。やっぱり歌はいいですね。コロナ禍。エンターテインメント、観光、芸術はどのような形に変わろうと守っていかなければならぬ大切な文化だと思います。

大槌町との思い出や関係のきっかけを教えてください。

みち乃く兄弟という芸名の前はあの吉幾三さんから頂いた「戦国」、そしてその前は「兄弟鳥」、そして最初の芸名は生まれ育った吉里吉里を頂いて「吉里吉里兄弟」としてデビューしました。

今も東京で頑張っています。心はいつもふるさとと共にあります。大槌町の皆様には吉里吉里兄弟の方が知られていると思います。大槌町の産業まつりには毎年の様に参加させて頂いております。

大槌町ではふるさと納税や、通信販売サイト「大槌孫八郎商店」で、町特産品のPRに務めています。大槌の特産品と言えは？

子どもの頃はいつも友達と吉里吉里弁天様で泳いで磯のウニや鮑をとって食べたり、岩ガキを石で叩いて食べた。そんな思い出は沢山あります。

吉里吉里といえば、我々は毎年4月になると新ワカメを地元から取り寄せて東京のファンクラブの皆様差し上げています。これが大好評で皆様から大変喜ばれています。「三陸わかめ」今年も届きました。

今後、三陸♥おおつちPR大使として大槌町で、あるいは大槌町民と一緒に挑戦してみたいことは？

やっぱりみち乃く兄弟としては、大槌町の皆様の前で私達の歌を歌い、大槌町の皆様に聴いていただきたい。一日も早くコロナが収束してコンサートができたらいいですね。

本年の活動予定を教えてください。

今年もまだまだ東京は大変な状況ですがお客様の人数を半分にしてコンサートをしたり、また6月24日は平泉のホテル武蔵坊にて新沼謙治さんとディナーショー、7月11日には大船渡にて新沼謙治さん、千昌夫さん、みち乃く兄弟のコンサートが予定されています。

新沼謙治さんが作詞作曲してくれた、大槌町を歌った新曲「帰郷」、今年もこの「帰郷」で頑張ります。大槌町の皆様も是非一度聴いてみてください。これからも大槌町をPRして参ります。

大槌町民へメッセージをお願いします。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を願いつつ、町民の皆様方には、くれぐれもお身体をご自愛いただき、またふるさとで皆様と笑顔でお会い出来る日を楽しみに、みち乃く兄弟も頑張つて参ります。町民の皆様、どうぞお元気で！

